



教員特別研究(その他研究)成果報告書

配分研究費:883千円

公立大学間の研究・教育・大学運営に関する協定の可能性に関する研究～沖縄県立芸術大学を事例にして

目的・概要

本研究は、これまで本学において積極的に推進されてこなかった公立大学との研究・教育・大学運営の三つの側面に関する具体的な連携協定のあり方を研究テーマとし、すでに公立大学として積極的に連携協定に取り組む名桜大学の事例を調査し、その結果を踏まえて、地域文化・芸術と深く結びついた教育を行う公立大学法人沖縄県立芸術大学との研究・教育の両面の可能性や問題点を見出し、協定実現に向けての方法を模索した。

期間

令和7年4月1日～令和8年3月31日

研究担当者

文化政策学部 芸術文化学科 教授 梅田 英春(研究代表者)
副学長 森 俊太
デザイン学部 デザイン学科 教授 藤井 尚子

スケジュール

令和7年5月～7月
令和7年7月～令和8年2月

令和8年1月

令和8年3月

名桜大学等、公立大学間の連携協定の調査
沖縄県立芸術大学長他、複数の教員との検討
大学(特に工房など)の施設見学など
名桜大学の大学間連携担当の教員・職員との
情報交換
沖縄県立芸術大学側から教員間交流として招待
を受け学生、教員と演奏を行う。
研究のまとめと総括、今後の協定のあり方を検討

研究成果

公立大学の事例として調査した沖縄県北部にある名桜大学は27の国内大学と協定を結び、うち公立大学とは3校と連携協定を結んでおり、年間10数人の国内留学制度を実施している。ただ公立大学全体を調査しても、公立大学間の連携協定は極めて少ないのが現状である。お互いに潤沢とはいえない予算の中、地域との連携に取り組む各大学は積極的に連携すべきと考える。

沖縄県立芸術大学は本学と異なり実技系芸術大学である。一方、沖縄という地域の特性を生かし、地域との連携に取り組む大学でもある。本研究では沖縄県立芸術大学の学長、副学長、音楽学部、美術工芸学部の両学部長、地域連携センターとしての機能をもつ沖縄文化研究所長と協定についての検討を重ねた。その結果、滞在型の単位互換を目的としての交流ではなく、相互に自身の大学で学べない分野の集中的な講義や実習を両大学で実施し、短期滞在で単位を取得するシステムの構築、教員間の共同研究などを目的とする連携協定を結ぶ可能性を研究成果として提案したい。具体的には、アートマネジメント分野での交流、工芸分野(染色・織・漆芸など)での交流、デザイン学部・学科間交流、芸術大学学生・教員による演奏会の開催、など具体的な交流が考えられる。



今後の研究成果の還元方法

沖縄県立芸術大学側は、学長も含め本学との連携協定を前向きに考えていることがわかっている。それゆえできるだけ早く、いくつかの目的を大学相互で確認し、連携協定を結ぶべきである。

そのための方法としては本学の学長と沖縄側の学長との意見交換、また大学として方針を定め、研究分担者の森(副学長、現理事)、藤井(デザイン学部長)、さらには教務部長などが加わり、ワーキンググループを作り、具体的な交流内容を定めていく必要がある。ただし、はじめてから単位互換などを目指すのではなく、可能な分野で学生間・教員間交流を行うなど、徐々に交流を深めていく方法を取り、今回の研究成果を実際の公立大学間の連携協定につなげていきたいと考えている。